

普及現地情報

発信年月日：平成 28 年(2016 年)11 月 7 日
所属名：湖東農産普及課
番号：F16010
部門分類：420 (組織経営)
発信者名：川村、岡田

6 次産業化先進地事例研修会開催

管内では 8 経営体が 6 次産業化総合化事業計画の認定を受け、地場産農産物の有効活用ならびに付加価値付けに取り組んでおられます。さらに今後、6 次産業化に取り組みたい担い手の相談も多くあります。しかし、売上げが伸びないや販路はどうすればいいのか等が課題となっています。

このため、農産普及課では販売計画の作成や商品づくりの考え方について学ぶ機会が必要と考え、10 月 25 日三重県の 6 次産業化先進事例研修会を湖東地域農業センターと連携して開催し、17 経営体 (35 名) が参加されました。

まず、「農事組合法人あぐりぴあ伊賀」では H23 年度に 6 次産業化関連事業で加工施設の整備を行い、タマネギ入りのいなり寿司など米の加工品を量販店、直売所等への販売等事業計画を立て運営されています。「施設の投資に見合った売上げ目標を設定し、それに向け販路開拓や商品開発を行っている」「女性のライフワークバランスを考慮し、年配女性は早朝から、子育て中の女性は子供を学校に送ってから作業に従事する体制で活動」との説明を受けました。

「株式会社権現前営農組合」では、H27 年度に 6 次産業化関連事業で加工施設を整備し、枝豆・冷凍枝豆・枝豆ペーストを加工販売しておられます。「大学との連携による大豆在来種の改良により、独自性のある商品を開発」「実需者と連携して商品開発を行い、量販店、豆腐店、菓子屋など販路が確保できた」「価格は相場をつけるのではなく、儲かる値段をつけること。またその値段で売るにはどうしたらよいかを考えること」との説明を受けました。

また、車中を利用して、農産普及課より 6 次産業化の支援内容、6 次産業化成功の秘訣、集落営農組織における加工部門の経営管理についての研修を行いました。

参加者のアンケートには「綿密な計画を作成したうえでの投資や活動を行うことが重要と実感」「儲けをしっかりと考えて経営しないといけない」等記載されており、視察研修会の目的が達成できました。

今後もこれを踏まえ、6 次産業化により経営体の収益があがるよう支援を行います。



取り組みに説明を受ける



枝豆加工施設見学